

誰もが生きやすい社会は どのようにつくれるのか？

——ケア・立場性・脱植民地主義

How Can We Build a Society Where Everyone Can Live Well?
Care, Positionality and Decolonisation

対談 / IN CONVERSATION



石原 真衣 ISHIHARA Mai

北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員研究員
文化人類学／脱植民地主義／先住民フェミニズム



村上 靖彦 MURAKAMI Yasuhiko

大阪大学人間科学研究科教授
現象学／ケア論／インタビュー方法論

開会挨拶	木村 拓也	(九州大学人間環境学研究院教授／Q-AOS社会クラスター長)
第1部・第3部	藤岡 悠一郎	(九州大学比較社会文化研究院准教授／Q-AOS地域と未来モジュール長)
	徳安 祐子	(九州大学人間環境学研究院／Q-AOS助教)
ファシリテーター	里村 和歌子	(九州大学Q-AOS准教授／Q-AOSレジリエンスとジェンダー平等モジュール長)
司会	銭 琨	(九州大学Q-AOS准教授／Q-AOS社会副クラスター長)

2026.11.7 土 九州大学 伊都キャンパス 稲盛ホール
14:00 – 16:15 Inamori Hall, Ito Campus, Kyushu University

参加費無料

申込不要

日本語

プログラム / PROGRAMME

- 14:00 開会挨拶・趣旨説明
- 14:10 第1部「問いを差し出す」
- 14:30 第2部 対談「ケアと脱植民地主義の交差」
- 15:40 第3部「応答」
- 16:10 閉会

趣旨 / ABOUT

ケアの思想は、傷つきやすさを抱えたすべての人に向けられているはずである。これまで声を届けることが難しかった人々の言葉に、私たちはどれだけ耳を傾けてきただろうか。

聞くこと、応答すること、沈黙を受け取ることについて考える。

主催 九州大学アジア・オセアニア研究教育機構（Q-AOS）社会クラスター

科研費 基盤研究(B)「植民地主義／レイシズムからケアを考え直す」
(25K00388)

科研費 基盤研究(C)「立場の異なる女性同士の連帯とポジショナリティ——脱植民地運動を中心に」(24K05307)

問い合わせ 里村
satomura.wakako.010@m.kyushu-u.ac.jp

参考文献

石原真衣, 村上靖彦, 2024, 『アイヌがまなざす——痛み
の声を聴くとき』岩波書店。



※ 本企画は「アジアウィークで探る持続可能な未来」の授業単位取得対象セミナーです